外国人 高校進学に壁

言葉や情報 支援に地域差

2019年末に在留外国人は約293万人と過去最多を更新。その子どもたちへの高校進学の支援は大きく遅れている。彼らを取り巻く現状は、多様な人が共に生きる社会の実現に向け課題も提起する。日本学術会議の多文化共生分科会は8月、「外国人の子どもの教育を受ける権利と修学の保障」に改善策をまとめ政府に提言。分科会委員長で京都大教授の竹沢泰子さんに問題点を聞いた。

「外国人の生徒の教育に関する実態把握のために、国はデータの公表や調査を進めるべきです」と話す竹沢泰子京都大教授

たけざわ・やすこ　神戸市生まれ。京都大人文科学研究所教授。専門は文化人類学、マイノリティー研究。兵庫県外国人県民共生会議座長などを務める。

文部科学省の学校基本調査によると、日本の高校などへの進学率は約99％（18年）。これに対し分科会の推定値では、外国人生徒の場合は約64％（同）と低い。「潜在的に高い能力を持っている生徒は多いと思うが、進学にはさまざまなバリアー（壁）がある」と竹沢さんは解説する。

生徒にとって大きいのは、言葉の問題だ。日常会話はできても学習に必要な日本語に支障がある生徒もおり、進学を阻むケースもある。「高校入試が、日本の義務教育で9年間学んだことを前提にした多数派向けの内容になっている」と竹沢さんは指摘する。

家庭に入試の情報が届かない問題もある。横浜市の「外国人意識調査」（19年）では、保護者の84％が「日本の高校に進学させたい」と回答した。ただ、保護者は日本の教育の仕組みを知らず、入試の情報提供が複数言語に対応していない場合も。「現状では中学卒業後の選択肢が十分に示されていない」と竹沢さん。

生徒の多様性に配慮し、入試に特別枠などを設けることで、進学の門戸は広がる。受験科目を減らし、面接や作文での試験を認める自治体もあるが「現状では地域格差が大きく、国が率先して是正していくべきだ」。

多様性歓迎する社会に

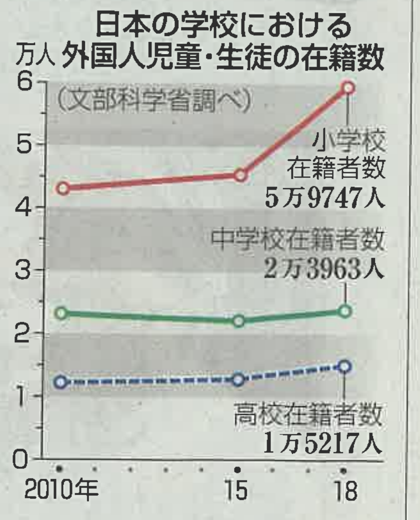
高校在学中のサポートにも課題が。校内で少数派の生徒は孤立しやすく、学ぶ意欲を維持するのは難しい。文科省の調査では、外国出身者ら日本語指導が必要な生徒の中退率は、公立高校生の全体と比べ7倍以上だ。

竹沢さんは、学校が地域の外国出身の大人と連携し、学校活動に参加してもらうことを提案。家族以外の大人と接することは、幅広い職業を知る機会にもなる。「似た境遇で苦労をしたロールモデルのような人がいれば、未来がイメージでき、学習の動機づけにもつながるのではないか」

改正入管難民法が昨年施行、家族の帯同を認める在留資格も創設された。子どもの増加が予想される中、多様な背景を持つ人々をどう育めるのか。日本社会の在り方に結び付く課題でもある。

「少数派だからこそ持てるユニークな視点があり、それを社会が歓迎することは本人の生きやすさにつながる」と竹沢さん。「それだけでなく、性的少数者や障害のある人など、多様な人が生きやすい社会になるはずです」と強調する。

日本の学校における外国人児童・生徒の在籍数



入試にさまざまな配慮

文部科学省の調査によると、公立の小、中、高校などを含めた外国出身者ら日本語の指導が必要な児童、生徒は2018年までの10年間で1・5倍に増えている。一部の地域で入試などのさまざまな対応が進む。

外国人生徒に対し、公立高校の入試で特別な配慮をする都道府県もある。兵庫県では、県立高校に在日期間3年以内の生徒を対象とした特別枠があり、入学後も日本語学習の機会を設けている。熊本県などは受験科目を軽減し、作文などを実施。宇都宮大国際学部は外国人生徒のための入試制度を設け、学科試験ではなく日本語の小論文や面接で選抜している。だが、このような大学は限られており、高校卒業後の進学にも壁があるのが実情だ。

多彩な背景を持つ子どもたちは、グローバルに活躍できる可能性を秘めている。その芽を摘まない施策を求める声が強まっている。

くらし

親子でひらく 数楽（すうがく）の窓

▶12

小笠 直人

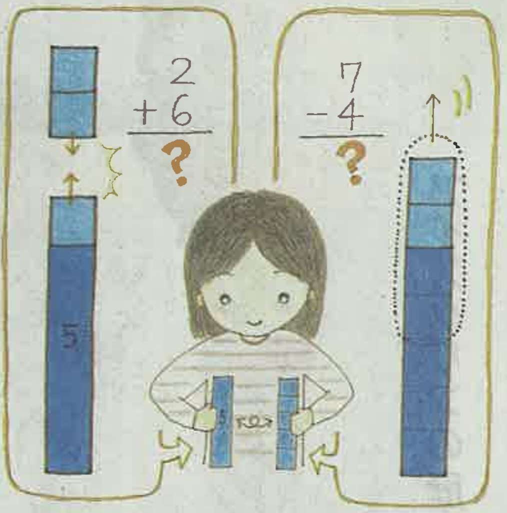
ひとまとまりの「5」を軸に

今回は、6から9までの数の勉強に進みましょう。すでに5までの数を習い、足し算・引き算を学んだことで、その土台はできています。

6から9までの数は「5」を軸にしながら考えます。これまでは1タイルを5個つなげて5タイルを表していましたが、イラストのように、それをひとまとめにした5タイルを工作用紙で作ります。表には1タイルごとの区切りの線を引き、裏には線を引かず、中央に「5」と書きます。これを「ひとまとまりの5タイル」とします。

「ひとまとまりの5タイル」に、1タイルを1個付けることで「6」になります。実際にタイルを動かしながら「これを『5と1で6』って言うんだよ」と伝えましょう。「5と2で7」「5と3で8」と、5を軸にしながら、6から9までを学ぶのです。

一つずつ8や9といった大きな数を数えると、途中で数え間違う恐れがありますが、5をスタートにすることでその心配も軽減されます。慣れないうちは、「せーの、5、6…」と子どもと一緒に言いながら数えてみましょう。



イラスト・千田悦代

ひとまとまりの5タイルを用いた考え方で足し算・引き算を見てみましょう。例えば、「2＋6」は、「2個のタイル」に「ひとまとまりの5タイル」と「1個の1タイル」を合わせることになります。すると5と3の状態になり、パッと見ただけで答えは8と分かります。

「7−6」なら、「ひとまとまりの5タイル」と「2個のタイル」から「ひとまとまりの5タイル」と「1個のタイル」を取ればいいだけ。このように、5を軸にすることで計算が楽になります。

一方、「7−4」のように、5タイルからも引かなくてはいけない場合は、ひとまとまりの5タイルをひっくり返します。区切りの線が見え、7個のタイルが集まっている状態になるので、そこから4個を取る（手で隠す）ようにします。

合わせて、式の書き方も横書きから、十進位取りを意識できる縦書きの筆算で表すことにも慣れていきましょう。縦書きの筆算は小2まで出てきませんが、位取りを理解するには欠かせない大切な計算方法です。最終回のテーマ「10」に備えることもできます。

（遠山真学塾代表）

＝月曜掲載

感想をお寄せください。〒780 8572 高知市本町3の2の15、高知新聞社学芸部。メールはkurashi@k

おうちキャンプ 安全に

知って備え

自宅のベラ
プ気分を味わ
が流行してい
盤機構（NIT
んろなどのガ
十分に換気で
全に楽しむよ
2015～

あけぼの

イヤリング

田村 栄子（65） 自営業 吾川郡いの町公園町

4年前
った髪を
50歳で切
思いなが
り、なか
した。「癖
ロングか
してみな
分からな
容師さん
ちょして
還暦を
しようと
ました。
トは秋ご
（寒くな
ラーを巻
とのアド
決まりま
がすんな